

常念岳・蝶ヶ岳縦走 第2・3日目

常念小屋から常念岳・蝶ヶ岳ヒュッテを経て三俣登山口まで
2019年8月28日(水)～29日(木)

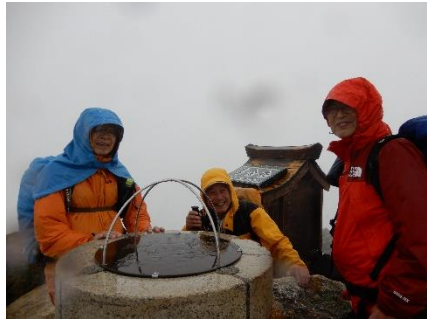
昨夜から降りだした雨は、強風を伴って吹き荒れたまま朝を迎えた。このままノ沢を下って帰るか、予定通り先へ進むか悩んだが、常念岳を目指すことにした。頂上まで行けばそのまま先へ進むことになる。

カメラは、念のためビニール袋で包んで雨具のポケットに入れていたが、風雨の中で取り出すのは億劫で、ほとんど写していない。僅かな写真でまとめてみよう。➡

常念岳を南に下りきると、道はなだらかになり安心して進めるが、風雨は依然として治まらず露出した頬が痛いくらいに吹きつけてくる。

地図に2,592mのピークと書かれたところにさしかかるあたりから、気持ちの良い森の中の道が現れて、風が遮られてホッとした。

2,592mのピークに立つ案内標をしっかりと確認して、蝶ヶ岳へ向かった。



➡ 常念岳山頂に、約1時間45分を要して到着した。コースタイムは70分とあるから、かなりのスローペースだ。

山頂は狭く、風雨を遮るものは何もない。祠と展望指示盤があるが、写真を1枚写してすぐに下ることにした。

長いガレ場の急坂が続き、巨岩の上を飛び石のように渡る場所もある。

慎重に、慎重に。



蝶ヶ岳にはこの道標が一つあるだけ。どんどん先へ進むのみ。

やがて広いガレ場に出ると、横尾への分岐の道標が立っている。



吹きさらしの横尾への分岐のある場所では、西からの強い風が吹きつけてきていて、瞬時あたりを見まわしただけでまた歩きだす。

砂礫の、わずかに上り傾斜の道を行くと、蝶ヶ岳ヒュッテの屋根が見え、そこに展望指示盤が据えられていた。すぐ脇に避雷針も建っている。

展望指示盤を囲んで、無事の走破を祝して小屋に入った。

左の写真は、蝶ヶ岳ヒュッテと蝶ヶ岳。

地図にはこの山が蝶ヶ岳最高点2,677mとある。

天気が良ければもちろん登ったことだろうが、展望は望めないのが割愛した。



8月29日(木)

蝶ヶ岳ヒュッテの受付。

ここに、緑色の公衆電話が置いてあった。麓までタクシーを頼もうとしたが、上手いかず、結局携帯電話で予約した。(公衆電話の使い方、難しい。) ➡



➡ 今日も雨が降っているが、大雨ではない。ときどき暑くて雨具のフードを外して歩くが、雨が強くなると急いでフードをかぶる。これは蝶沢を渡ったところ。



まめうち平到着。

立ったままで小休止して、先へ進む。 ➡



吊橋を渡る。



三俣に着いた。



三俣登山口の登山補導所。

➡ ゴジラの頭 出現。

有名な切り株らしくて、傍らには手書きの看板が建ててある。

口元にはたくさんの石が噛ませてある。

まったく良く似たものだ。

やがて、常念沢や蝶沢が合した本沢に架かる吊橋に出る。数メートル下には白く泡立つ水がいきおいよく流れている。

それを渡ると間もなく三俣に到着し、登山補導所の建物に着く。ここで雨も止み雨具を脱ぎ、スパッツを外して、タクシーを待った。

身支度を整えて周りを見まわしてみた。少し高いところに更衣室の建物が建っている。

ここの案内板には、蝶ヶ岳から常念岳への縦走は台風並みの悪天候なので、縦走はしないようにと書いてあった。

タクシーで「ほりで一湯 四季の郷」まで送ってもらい、ほぼ4日分の汗を流して、レストランで祝杯を挙げたのであった。タクシーで豊科駅へ。大系線で松本駅。JRの特急あずさ30号に乗って帰ってきた。

(km)